

第5期 第5回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 令和4年5月18日(水) 13:30~14:20

2 場 所 苫小牧市役所職員会館3階 304号室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

伊藤委員、遠藤委員、太田委員、奥村委員、加藤委員、坂本委員、佐藤委員、
須田委員、高橋委員、中島委員、長山委員、藤本委員、増田委員

(2) 事務局(市)

産業経済部 : 小名部長

産業振興室 : 白川室長

企業政策室 : 木澤室長

商業振興課 : 小泉課長、長谷川主査、高橋主査、江田主事

工業・雇用振興課 : 倉持課長、齋藤主査、今井主査、西村主事

4 概 要

(1) 開会

苫小牧市中小企業振興審議会開会(委員15名中13名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている)

(2) 委嘱状交付

苫小牧公共職業安定所、服部友幸氏が、人事異動により委員を辞退。新たな委員として同所より佐藤恭子氏の推薦をいただき、小名産業経済部長より委嘱状を交付。資料1にて委員名簿を提出。

(3) 事務局紹介

今年度の人事異動にて変更となった7名の事務局員を紹介。

(4) 報告

①前回の意見交換会の結果について

遠藤副会長より、2月16日(水)の第4回中小企業振興審議会後に開催された意見交換会の結果報告。

冒頭、審議会での話し合いは、次の中小企業振興計画を策定するのがメインだが、課題を抽出してそこから計画をつくる面と、感じ取っている課題に対して実際やってみたい事業を意見する面と、同時並行で計画を策定していきたい旨話があり、3つの柱の一つである「創業と事業承継」から、「6割の事業者に後継者がおらず、創業者とのマッチングも今後必要ではないか」「後継者がいないならば、第三者承継についても詰める必要がある」「ベンチャーキャピタルや金融機関を巻き込んで、やる気のある創業者を支援する土台づくりができないか」「IT、ICT関連の事業が弱

い苦小牧では、国でよく言うデジタル人材の育成が必要」「ICT事業が少ない中でも、実際活用している事業や活用したい事業者も多く、そういうところの事業者の支援も必要」という意見があったこと、商工会議所で事業承継についてのアンケートを取っており、次回か次々回にここで報告できる可能性がある事を報告。

○中島委員

商工会議所で取っているアンケートの内容は。

○遠藤副会長

商工会議所に所属する2,100会員に、「事業承継を考えているか」「考える場合後継者がいるか」「どこまで進めているか」「考えてない場合第三者承継まで含めて検討する余地はあるか」等の内容。

事務局より、報告の補足として、佐々木委員の意見よりコロナ禍で創業者が増えた理由について、一部報道などでは事業者の廃業に伴って空き店舗が増加し、新たに入居しやすくなったことや、キッチンカーでの創業の増加のほか、融資などの資金繰り支援策が充実するなど、新たに起業しやすい環境が生まれていることが背景にあること、また、創業セミナーの受講者や創業サポート補助金の申請者がコロナ禍以前よりも増加しており、動機として先行きの不透明な企業に属するよりは、自らの責任で事業を起こしたいと考えている方が多いという印象が強いことを報告。

中島委員の意見より他都市のICT関連の創業支援の取組について、和歌山市、福島市、横手市での事業を資料と共に紹介し、引き続き調査を続けることを報告。

(5) 議事

① 第二次苦小牧市中小企業振興計画素案（事業継続のための経営基盤の強化、販路拡大の推進）について

事務局より資料2に基づき、「第二次苦小牧市中小企業振興計画素案（事業継続のための経営基盤の強化、販路拡大の推進）」について説明。本案はこれまでの審議会議論等を踏まえた素案であり、第3回の審議会にて提出した骨子案を基に肉付けや整理を行ったもので、これをベースに議論を進めていただきたいことを説明。

1 番 「販路拡大を行うための支援」

○須田委員

ICT化推進コミュニティ創出事業について、たくさん内容があり感心しているが、何名が参加したのか。

●事務局

複数回参加される方もいる中で、全ての開催合計延べ250人程度と報告を受けている。

○須田委員

ここに講師の名前が無いが、みんな同じ講師か。

●事務局

受託したとまこまいベースの経営者がメインの講師としてやっていた。

○須田委員

講師をやってくれた方が、そのまま受講生とのつながりが強固になるような仕組みができると良いなと思っており、講師もなるべく地元の人で、名前が出ることでつながりが一層強まる、そのような取組を今後検討していただきたい(意見)。

○長山委員

各講座の参加者数と、参加者名簿はあるのか。

●事務局

参加人数や、法人や商店街のおおまかな参加者は報告されているが、名簿までは頂いてない。報告書は見せることは可能であるが。

○長山委員

250人も来てるような感じが無かったので聞いてみた。報告書は見なくても良い。

○高橋会長

参加者それぞれの知識レベルとかによっても、この事業がどのように反映するか分からないが、参加される皆様方自体も、そこの中で勉強したコミュニティーもでき、そこからネットワークも広がっていくような話も聞いている。参加者同士で個々のつながりが少しずつ増えていくのかと考えてる。

2番 「販路拡大を目指す事業者の交流促進」

○須田委員

C-b a s eについて、担当を外れたので正確な数字は掌握してないが、IT関連のコーディネーターを雇用できるような予算がありそう。先ほど出た販路拡大のECサイトや、ICT活用の話に対応できるコーディネーターを雇用することを考えているので、楽しみにしてほしい(意見)。

○高橋会長

審議会のメンバーで一度訪れて、活用の方法を考えようという話も出たので、今期中に時間をつくって見学に行きたい。特に前回の審議会で、集まって話をする場所が必要だという話をずっとしており、この部分は我々からスタートしていて、新しい事業者との出会いや、コラボレーションや、本当にわくわくやドキドキを創出するようなことができる場をみんなで作ってくれば良いと続けてきた話が、ここの場に上がっているものである。

3番 「経営基盤の強化に対する支援」

○中島委員

補助金の案内や、LINEの販促法など、活性化事業の案内を見てるが、実はあまり認識がなくて、皆さんご存じなのか。情報の展開が不明で、例えば商工会

議所で掲示をしているとかやっていると思うが、市役所に来ないと分からないとかではなく、ふとしたときに目につく案内があれば、事業の参加者も増えるのではと思うが、どう思われるか。

○高橋会長

痛いところをというか、結構知らない人は多いかと思う。ニーズがあった中で事業を作ってはいるけども、発信をしてもなかなか必要とされる相手に届きにくいというのはすごくある。これをどう活用していくかということで、例えば苫小牧市のポータルサイトがこの会議の中で生まれたものだが、そこからの情報発信を一つの窓口としてまとめるとかというのは、本当に必要なことではないかと。それぞれの団体の特性とか、情報として出せる出せないとかあるかもしれないが、改めて精査を行い、本当にもっともっと発信力の強いものにしなきゃいけないと感じる。

(6) その他

高橋会長より、次回審議会が令和4年8月3日（水）13：30～、職員会館3階304号室で実施予定であり、後日事務局より日程通知があることを説明。今回の議論を踏まえ、事務局で素案をもう一度修正し、次回の審議会は「人材確保及び人材育成の強化」についての議論を進めることを確認。また、本審議会終了後、引き続き意見交換会を実施することを説明。

(7) 閉会